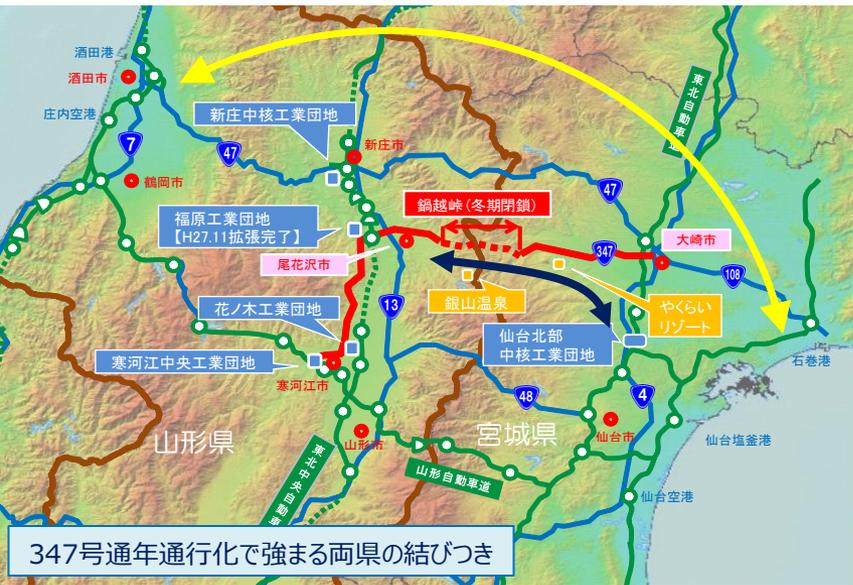


山形・宮城両県を結ぶ一般国道347号は、県境の鍋越峠を挟む17.7km（山形県側6.4km）にて、雪崩の危険等により、年間約150日間の冬期閉鎖を強いられてきました。

しかし、東日本大震災を教訓とした防災ルートとしての重要性や、両県の交流人口拡大、雇用創出及び観光振興などへの期待から、平成28年度の通年通行化について両県知事が合意し、現在、対策工事を鋭意進めています。



【防災】 太平洋側と日本海側をつなぎ、国道47号、国道48号を補完する横軸機能の強化
 震災直後、日本海側から支援物資を積んで被災地を目指した車両の多くが、冬期閉鎖入り口から引き返しました。
 通年通行化により、広域的災害時の物流や、避難において**国道47号、国道48号を補完するリダンダンシー機能**が確保されます。

【地域経済・観光】 二つの経済圏が1年を通して1時間圏内に

- ① 自動車産業をはじめ、東北地方有数の企業集積地である仙台北部中核工業団地へのアクセスが容易となることから、**本県企業の受注増加**や、**尾花沢市福原工業団地**などの**企業誘致の促進**が期待されます。
- ② 尾花沢市周辺が、仙台北部中核工業団地の通勤圏となり、新たな雇用が創出されることで、**人口減少の歯止め**や**定住促進**が期待されます。
- ③ 周辺には、**银山温泉**（山形県尾花沢市・年間観光客数約28万人）や「**やくらいリゾート**」（宮城県加美町）などの観光地があり、**両県を結ぶ新たな観光ルートの掘り起こし**による**観光交流促進**が期待されます。

347号通年通行化で強まる両県の結びつき

対策内容とスケジュール

対策項目	対策の内容	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
■雪崩対策							
調査・設計	積雪状況調査、雪崩調査など						
雪崩対策工事 (対策完了数)	吊柵、せり出し防止柵など 【全体】14箇所、23施設			2箇所完了	6箇所完了	14箇所完了	
■吹雪対策							
調査・設計	吹雪発生状況の調査など						
吹雪対策工事	視線誘導柵、防雪柵						
■除雪計画の検討							
試験除雪							
■その他安全確保に必要な対策							
気象観測装置設置	3箇所						
非常通報設備設置 道路情報提供装置設置							
チェーン着脱所整備	2箇所						



地域の取組

国道347号「絆」交流促進協議会
 (H26.6設立)
 沿線の宮城県大崎市、加美町、山形県尾花沢市、大石田町の2市2町が、鍋越峠の通年通行を契機に、県境を越えた交流により地域連携を深め、鍋越峠の携帯電話不感区間解消の要望活動などに取組んでいます。



左から大石田、尾花沢、大崎、加美の各市町長 (H27.5.1)

一般国道347号鍋越峠道路管理検討会議
 (H27.11設立)
 道路管理の検討にあたり、専門家や利用者の意見を聴くことを目的に、学識経験者、民間、国、警察、消防、沿線4市町からなる会議を実施しています。



委員による現地視察(H28.2.15)

通年通行化